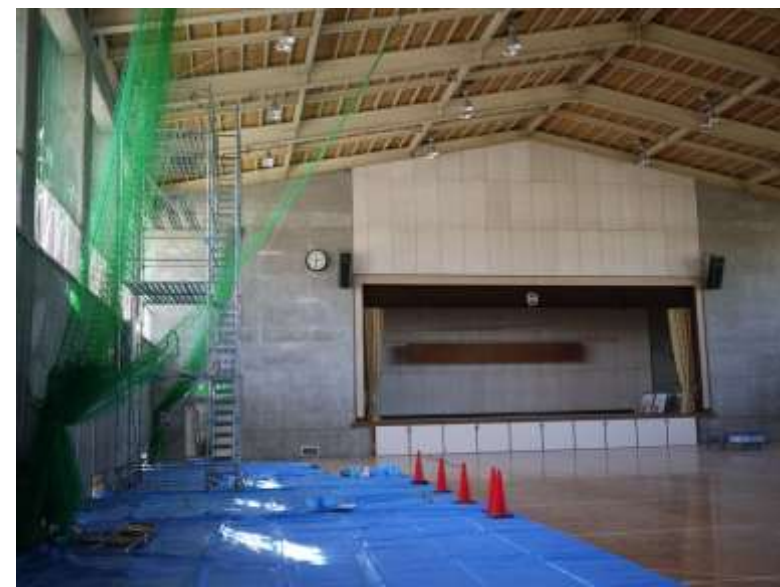




防災科研のKiK-net山元観測点(MYGH10)



強震観測点が置かれた山元町立体育文化センター



体育館内部には先月の地震により雨漏り被害が発生



1908年の地形図



体育文化センター(左)と宮城病院(右)の間の道路



体育文化センター周辺の住家に見られる棟瓦の被害

## 2月13日の地震で最大の強震動が観測されたKiK-net山元観測点の確認

今回山元観測点で得られたPGA=1.4G, PGV=76cm/s, 計測震度6.4などの数値と周辺の軽微な被害状況との関係には納得しがたいほどの違和感がある。古い地形図を見ると体育文化センターの敷地は谷地形上に位置しており、局地的な埋立て地盤の影響で0.35秒の鮮明な卓越周期が出現したものと推測している。詳細な余震の高密度観測や微動調査が望まれる。

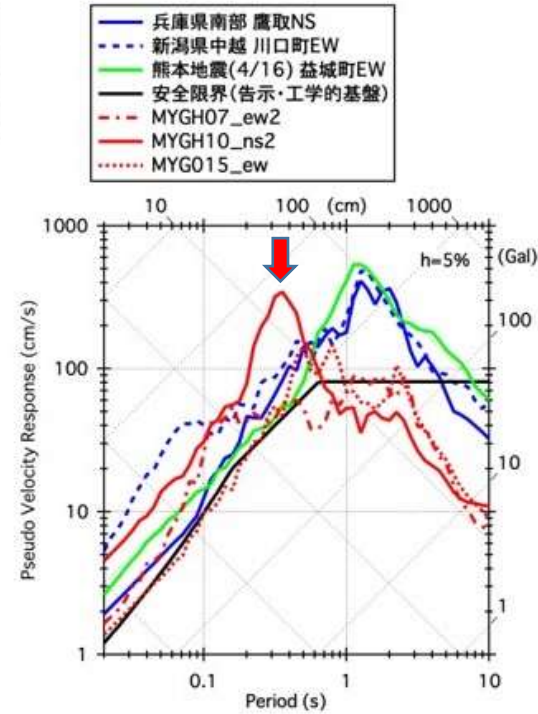
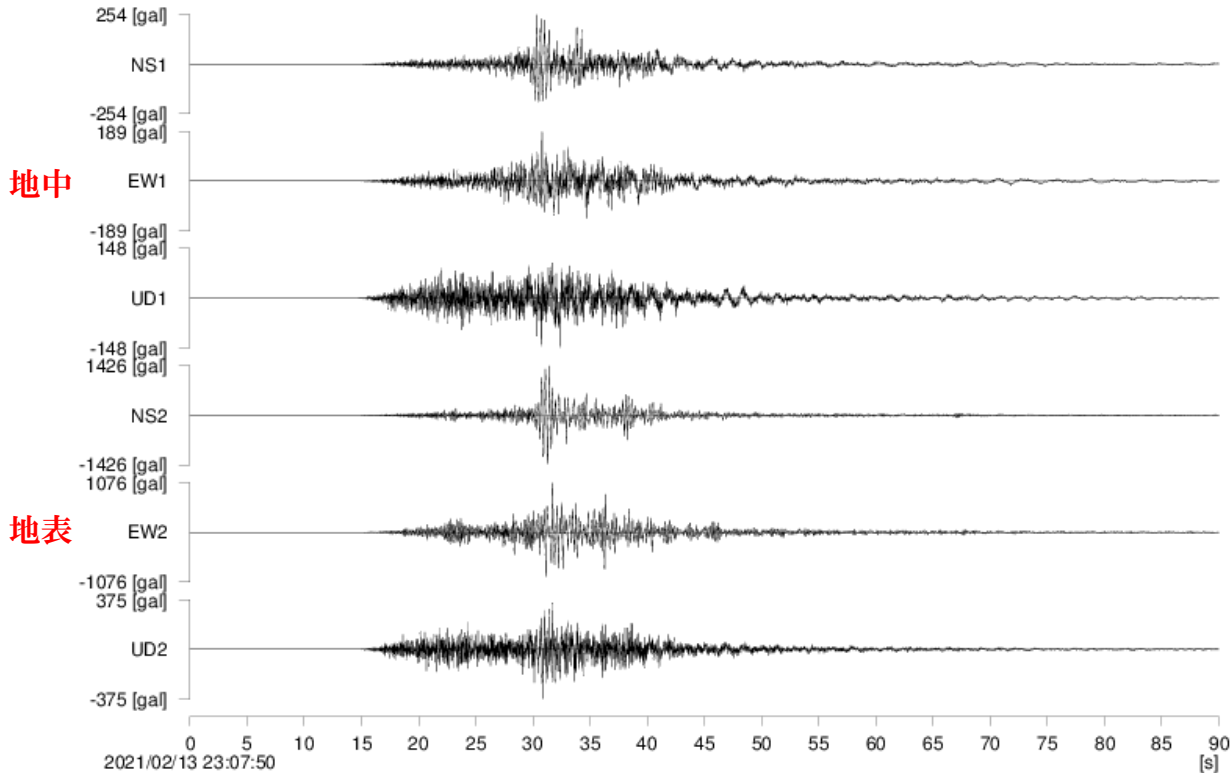
# 防災科研 KiK-net 山元観測点(MYGH10) の観測記録

宮城県の震度6弱以上の記録 (防災科研)

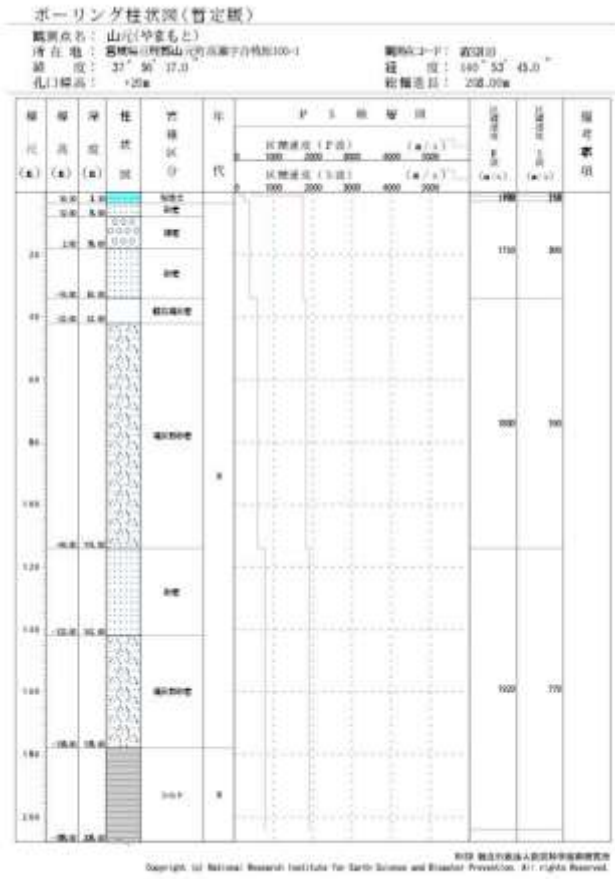
地点コード	地点名	PGA (cm/s <sup>2</sup> )	PGV (cm/s)	計測震度
MYGH10	山元	1426	75.8	6.4
MYG015	岩沼	433	46.1	5.8
MYGH07	川崎	714	36.2	5.6

\*即時公開データ(今後見直される場合がある)

MYGH10 2021/02/13-23:08:05



- ・建物の構造被害に影響すると指摘されている周期1s強の成分は過去の大被災域の記録に達していない
- ・短周期(周期0.5s以下)の振幅は同等の地点があり、外装材や屋根、設備機器、ブロック塀などの被害に注意。(震度6強の記録は未入手なことに注意)



地震応答スペクトル図は東北大学災害科学国際研究所の公開資料のうち『2021年2月13日福島県沖の地震(M7.3)地震動特性(速報)』と題する同研究所の大野晋准教授の資料を引用させて頂いた。  
またボーリング柱状図は防災科研、地震津波火山ネットワークセンター 強震観測管理室からご提供いただいたものである。



# 新地町の役場・駅周辺

先月の地震被害は山元町よりも新地町の方が大きいとの印象であった。ただし、被害の内容は木造住家の棟瓦の被害がほとんどであった。新地町役場の庁舎では天井の照明が数か所はずれかけており、直下の床に注意喚起のために椅子が置かれていた。



JR新地駅



新地駅周辺の閑散とした風景



新地町の典型的な棟瓦の被害



新地町役場の庁舎(平成14年竣工)



新地町役場の震度計



新地町役場の天井被害

# 南相馬市小高地区

今回の地震被害の痕跡は全く認められなかった。関連の調査報告が本サイト“東日本大震災関連のトピックス”中の『宮教大の学生が主催する被災地観察研修に同行して南相馬市小高区を見てきました(2014.7.21.)』にありますのでご参照ください。



JR小高駅



小高神社拜殿と奉納額



小高駅前メインストリート



小高城址に立つ小高神社



小高駅前観光案内マップ



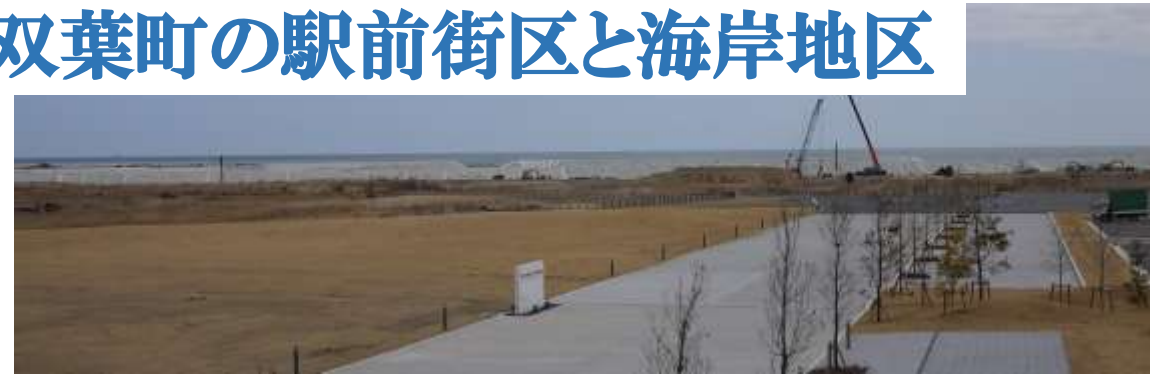
菓子店の美しい建築



妙見橋から見た小高川上流側



# 双葉町の駅前街区と海岸地区



JR双葉駅の駅舎と無人改札口

荒涼とした海岸地区に延々と続く防潮堤



10年前の震災から放置されたままの住家

双葉駅前に近い無人の街区

東日本大震災・原子力災害伝承館(休館日のため入館できず)



震災瓦礫の集積場の前を往来するダンプカー